特55
927

在家勤行法則

先懺悔文

我昔所造諸惡業　皆由無始貪瞋癡
從身語意之所生　一切我今皆懺悔

次三歸　三反

弟子某甲　盡未來際
歸依佛　歸依法　歸依僧

次三竟　三反

弟子某甲　盡未來際
歸依佛竟　歸依法竟　歸依僧竟

次十善戒　三反

弟子某甲　盡未來際
不殺生　不偷盜　不邪婬　不妄語
不綺語　不惡口　不兩舌　不慳貪
不瞋恚　不邪見

次發菩提心眞言　三反

唵冒地質多母怛波那野弭

次三摩耶戒眞言　三反

唵三昧耶薩怛鑁

明治39 4 9
内交

特55
927

在家勤行法則

先懺悔文　一反

我昔所造諸惡業　皆由無始貪瞋癡
從身語意之所生　一切我今皆懺悔

明治
39 4 9
内交

次三歸　三反

弟子某甲　盡未來際
歸依佛　歸依法　歸依僧

次三竟　三反

弟子某甲　盡未來際
歸依佛竟　歸依法竟　歸依僧竟

次十善戒　三反

弟子某甲　盡未來際
不殺生　不偷盜　不邪婬　不妄語
不綺語　不惡口　不兩舌　不慳貪
不瞋恚　不邪見

次發菩提心眞言　三反

唵冒地質多母怛波那野弭

次三摩耶戒眞言　三反

唵三昧耶薩怛鑁

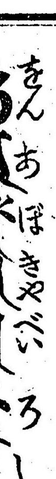
次發菩提心眞言　三反

唵冒地質多母怛波那野弭

次三摩耶戒眞言　三反

唵三昧耶薩怛鑁

次光明眞言　廿一反或は百反千反



次高祖寶號　七反

南無大師遍照金剛

南無聖寶理源大師

南無興教大師

但し經陀羅尼及び和讃等隨意加唱することもあるべし

佛說摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩深般若波羅蜜多を行じ玉ふ時に五蘊皆空と照見して一切の苦厄を度し玉ふ舍利子色は空に異らず空は色に異らず色卽ち是れ空空卽ち是れ色なり受相行識も亦復是の如し舍利子是の諸法は空相なり生ぜず滅ぜず垢れず淨らず增せず減ぜず是の故に空中には色も無く受相行識も無く眼耳鼻舌身意も無く色聲香味觸法も無く眼界も無く乃至意識界も無く無明も無く亦無明の盡ることも無く乃至老死も無く亦老死の盡ることも無く苦集滅道も無く智も無く亦得も無し所得無きを以ての故に菩提薩埵般若波羅蜜多に依るが故に心に罣礙無し罣礙無きが故に恐怖有ること無し一切の顚倒夢想を遠離して涅槃を究竟す三世の諸佛

も無く亦老死の盡ることも無く苦集滅道も無く智も無く亦得も無し所得無きを以ての故に菩提薩埵般若波羅蜜多に依るか故に心に罣礙無し罣礙無きが故に恐怖有ること無し一切の顛倒夢想を遠離して涅槃を究竟す三世の諸佛般若波羅蜜多に依るが故に阿耨多羅三藐三菩提を得故に知ぬ般若波羅蜜多は是大神呪なり是大明呪なり是無上呪なり是無等等呪なり能く一切の苦を除き眞實にして虛ならず故に般若波羅蜜多の呪を說く卽ち呪を說て曰く

揭諦揭諦　波羅揭諦　波羅僧揭諦
菩提娑婆賀
般若心經

次法身偈

諸法從緣生　如來說是因
是法從緣滅　是大沙門說

次

般若心經秘鍵　幷序

文殊利劍絕諸戲
(14)辺眞言爲種子
無邊生死何能斷
尊者三摩仁不讓

遍照金剛撰

覺母梵文調御師
含藏諸教陀羅尼
唯有禪那正思惟
我今讚述垂哀悲

般若心經秘鍵 幷序

遍照金剛撰

文殊利劒絶諸戯　覺母梵文調御師
(ぶ)辶眞言爲二種子　含藏諸教陀羅尼
無邊生死何能斷　唯有禪那正思惟
尊者三摩仁不讓　我今讚述垂哀悲

夫れ佛法遙なるに非ず心中にして卽ち近し眞如外に非ず身を棄てゝ何くんか求めん迷悟我に在れば卽ち發心すれば卽ち到る明暗他に非れば則ち信修すれば忽ちに證す哀なるかな長眠の子苦いかな痛ひかな狂醉の人痛狂は醉はざるを笑ひ酷醉は覺者を嘲る曾て醫王の藥を訪はずんば何れの時か大日の光を見ん翳障の輕重覺悟の遲速の如きに至りては機根不同なれば性欲も卽ち異なり遂ゞて二教轍を殊にして手を金蓮の場に分ち五乘鏃を竝べて蹄を幻影の埒に跪かす其解毒に隨て藥を得ること卽ち別なり慈父導子の方大綱此れに在りや。

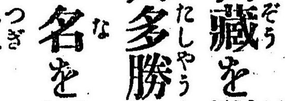
大般若波羅蜜多心經と謂ッぱ卽ち是れ大般若菩薩の大心眞言三摩地の法門なり文は一紙に欠て行は卽ち十四なり謂ふべし簡にして要なり約かにして深し五藏の般若は一句に嗛で飽ず七宗の行果は一行に獸で足ず觀在薩埵は諸乘の行人を擧げ度苦涅槃は則ち諸教の得樂を褰ぐ五蘊は横に迷境を指し三佛は竪に悟心を示す色空と言へば則ち普賢頤を圓融の義に解

り約かにして深し五藏の般若は一句に嗛で飽ず七宗の行果は一行に獣で足ず觀在薩埵は諸乘の行人を擧げ度苦涅槃は則ち諸教の得樂を褰ぐ五蘊は横に迷境を指し三佛は竪に悟心を示す色空と言へは則ち普賢願を圓融の義に解き不生と談ずれば則ち文殊顔を絶戯の觀に破る之を識界に說けば簡持手を拍ち之を境智に泯ずれば歸一心を快くす十二因緣は生滅を麟角に指し四諦の法輪は苦空を羊者に驚かす況や復た行ての一字は諸藏の行果を呑みしの両言は顯密の法教を孕めり一一の聲字は歷刼の談にも盡きず一一の名實は塵滴の佛も極め玉ふこと無し是の故に誦持講供すれば則ち拔苦與樂し修習思惟すれば則ち得道起通す甚深の稱誠に宜く然るべし余童を教るの次で

に聊か綱要を撮で彼の五分を釋す釋家多しと雖も未だ此の幽を釣らず翻譯の同異顯密の差別竝に後に釋するが如し或る人問ふて云く般若は第二未了の教なり何ぞ能く三顯の經を呑まん如來の說法は一字に五乘の義を含み一念に三藏の法を說く何に況んや一部一品何ぞ匱しく何ぞ無からん龜卦爻蓍萬象を含て盡くること無く帝綱聲論諸義を呑で窮らず難者の曰く若し然らば前來の法匠何ぞ斯の言を吐かざると答ふ聖人の藥を投ぐること機の深淺に隨

に三藏の法を說く何に況んや一部一品何ぞ匱しく何ぞ無からん龜卦爻蓍萬象を含て盡くること無く帝綱聲論諸義を呑で窮らず難者の曰く若し然らば前來の法匠何ぞ斯の言を吐かざると答ふ聖人の藥を投ぐること機の深淺に隨ひ賢者の說默は時を待ち人を待つ吾れ未だ知らず蓋し言ふべきを言はざるか言ふまじければ言はざるか言ふまじきを之を言へらん失ず智人斷り玉へ而已。

佛說摩訶般若波羅蜜多心經と者此の題額に就て二の別あり梵漢別なるか故に今佛說摩訶般若波羅蜜多心經と謂つ者胡漢雜へ擧げたり說心經の三字は漢名なり餘の九字は胡號なり若し具なる梵名ならば



と曰ふべし初の二字は圓滿覺者の名次の二字は密藏を開悟し甘露を施すの稱なり次の二字は大多勝に就て義を立つ次の二字は定惠に約して名を樹つ次の三つは所作已辯に就て號となす次の二つは處中に據て義を表はす次の二つは貫線攝持等を以て字と顯す若し摠の義を以て說かば皆人法喩を具す斯れ則ち大般若波羅蜜多菩薩の名なり卽ち是れ人なり此の菩薩に法曼荼羅眞言三摩地門を具す一一の字は卽ち法なり此の一一の名は皆世間の淺名を以て法性の深號を表す卽ち是れ喩

す若し摠の義を以て說かば皆人法喩を具す斯れ則ち大般若波羅蜜多菩薩の名なり卽ち是れ人なり此の菩薩に法曼荼羅眞言三摩地門を具す一一の字は卽ち法なり此の一一の名は皆世間の淺名を以て法性の深號を表す卽ち是れ喩なり此の三摩地門は佛鷲峰山に在して鷲子等の爲に之を說き玉へり此の經に數の翻譯ありの第一に羅什三藏の譯今の所說の本是なり次に唐の遍覺三藏の翻には題に佛說摩訶の四字無し五蘊の下に等の字を加へ遠離の下に一切の字を除く陀羅尼の後に功能無し次に大周の義淨三藏の本には題に摩訶の字を省き眞言の後に功能を加へたり又法月及び般若両三藏の翻には竝に序分流通有り又陀羅尼集經の第三の卷きに此の眞言法を說けり經の題羅什と同〻般若心と言は此菩薩に身心等の陀羅尼あり是の經の眞言は卽ち大心呪なり此心眞言に依て般若心の名を得或る人は云く大般若經の心要を略出するか故に心と名く是れ別會の說にあらずと云云謂もる龍に蛇の鱗有るが如し此の經に摠て五分有り第一に人法摠通分觀自在と云ふより度一切若厄に至るまで是なり第二に分別諸乘分色不異空と云より無所得故に至るまで是なり第三に行人得益分菩提薩埵と云ふより三藐三菩提に至るまで是なり第四摠歸持

經に摠て五分有り第一に人法摠通分觀自在と云ふより度一切若厄に至るまで是なり第二に分別諸乘分色不異空と云より無所得故に至るまで是なり第三に行人得益分菩提薩埵と云ふより三藐三菩提に至るまで是なり第四摠歸持明分故知般若と云ふより眞實不虛に至るまで是れなり第五に秘藏眞言分行行行と云ふより行行に至るまで是れなり第一の人法摠通分に五あり因行證入時是なり觀自在と云は能行の人なり卽ち此人は本覺の菩提を因と爲す深般若は能所觀の法卽ち是れ行なり照空は則ち能證の智度苦は則ち所得の果果は卽ち入なり彼の教に依る人の智無量なり智の差別に依て時亦た多し三生三刼六十百妄執の差別是れを時と名く頌に曰く

觀人修智慧　深照五衆空
歷刼修念者　離煩一心通

第二分別諸乘分に亦五あり建絕相二是なり初に建と者謂る建立如來の三摩地門是なり色不異空と云より亦復如是に至るまで是なり建立如來と者卽ち普賢菩薩の秘號なり普賢の圓因は圓融の三法を以て宗と爲すか故に以て之に名く又是れ一切如來の菩提心行願の身なり頌に曰く

色空本不二　事理元來同

建立如來と者卽ち普賢菩薩の秘號なり普賢の圓因は圓融の三法を以て宗と爲す、か故に以て之に名く又是れ一切如來の菩提心行願の身なり頌に曰く

色空本不二　事理元來同
無礙融三種　金水喩其宗

二つに絕と者謂ゆる無戲論如來の三摩地門是なり是諸法空相と云より不增不減に至るまで是なり無戲論如來と言卽ち文殊菩薩の密號なり文殊の利劒は能く八不を揮て彼妄執の心を絕乎是の故に以て名く頌に曰く

八不絕諸戲　文殊是彼人
獨空畢竟理　義用最幽眞

三に相と者謂ゆる摩訶梅多羅冐地薩怛縛の三摩地門是なり是故空中無色と云より無意識界に至るまで是なり大慈三昧は與樂を以て宗となす因果を示すを誡となす相性別論し唯識境を遮す心只此れにありや頌に曰く

二我何時斷　三祇證法身
阿陀是識性　幻影卽名賓

四に二と者唯蘊無我拔業因種是なり是れ卽ち二乘の三摩地門なり無無明と云ふより無老死盡に至るまで卽ち是れ因緣佛の三昧なり頌に曰く

風葉知因緣　輪廻覺幾年

四に二と者唯蘊無我拔業因種是なり是れ卽ち二乘の三摩地門なり無無明と云ふより無老死盡に至るまで卽ち是れ因緣佛の三昧なり頌に曰く

風葉知因緣　輪廻覺幾年

露花除種子　羊鹿號相連

無苦集滅道是れ此一句五字は卽ち依聲得道の三昧なり頌に曰く

白骨我何在　青瘀人本無

吾師是四念　羅漢亦何虞

五に一と者阿哩也囉路枳帝冐地薩怛囉の三摩地門なり無智と云ふより無所得故に至るまで是なり此の得自性淸淨如來は一道淸淨妙蓮不染を以て衆生に開示して其若厄を拔く智は能達を擧げ得は所證に名く既に理智を泯ずれば強ちに一の名を以てす法華涅槃等の攝末歸本の教唯だ此の十字に含めり諸乘の差別智者之を察せよ頌に曰く

觀蓮知自淨　見菓覺心德

一道泯能所　三車卽歸默

第三行人得益分に二あり人法是なり初の人に七あり前の六後の一なり乘の差別に隨て薩埵に異あるか故に又薩埵に四あり愚識金智是なり次に又法に四あり謂く因行證入なり般若は卽ち能因能行無导離障は卽ち入涅槃能證の覺

五に一と者阿哩也囉路枳帝冒地薩怛囉の三摩地門なり無智と云ふより無所得故に至るまで是なり此の得自性清淨如來は一道清淨妙蓮不染を以て衆生に開示して其若厄を拔く智は能達を擧げ得は所證に名く既に理智と泯ずれば強ちに一の名を以てす法華涅槃等の攝末歸本の教唯だ此の十字に含めり諸乘の差別智者之を察せよ頌に曰く

觀蓮知自淨　見菓覺心德
一道泯能所　三車卽歸默

第三行人得益分に二あり人法是なり初の人に七あり前の六後の一なり乘の差別に隨て薩埵に異あるか故に又薩埵に四あり愚識金智是なり次に又法に四あり謂く因行證入なり般若は卽ち能因能行無导離障は卽ち入涅槃能證の覺

智は即ち證果なり文の如く思知せよ頌に曰く

行人數是七　重二彼之法
圓寂將菩提　正依何事乏

第四の摠歸持明分に又三あり名體用なり四種の呪明は名を擧げ眞實不虛は體を指し能除諸苦は用を顯す名を擧くる中に初の是大神呪は聲聞の眞言二は緣覺の眞言三は大乘の眞言四は秘藏の眞言なり若し通の義を以ていはゞ一一の眞言に皆四名を具す略して一隅を示す圓智の人三卽歸一せよ頌に曰く

惣持有文義　忍呪悉持明
聲字與人法　實相具此名

第五秘藏眞言分に五あり初の𑖀𑖽は聲聞の行果を顯す二の𑖀𑖽𑖀𑖽は緣覺の行果を擧げ三の𑖀𑖽𑖀𑖽𑖀𑖽は諸大乘最勝の行果を指し四の𑖀𑖽𑖀𑖽𑖀𑖽は眞言曼荼羅具足輪圓の行果を明し五の𑖀𑖽𑖀𑖽は上諸乘究竟菩提證入の義を說く句義是の如し若し字相の義等に約して之れを釋せば無量の人法等の義有り劫を歷ても盡くし難し要聞の者は法に依て更に問へ頌に曰く

眞言不思議　觀誦無明除
一字含千理　卽身證法如
行行至圓寂　去去入原初
三界如客舍　一心是本居

問ふ陀羅尼は是れ如來の祕密語なり所以に古

眞言不思議　觀誦無明除
一字含千理　卽身證法如
行行至圓寂　去去入原初
三界如客舍　一心是本居

問ふ陀羅尼は是れ如來の祕密語なり所以に古の三藏諸の疏家皆口を閉ち筆を絕つ今ま此の釋を作る深く聖旨に背けり如來の說法に二種あり一には顯二には祕顯機の爲めには多名の句を說き祕根の爲には惣持の字を說く是故に如來自ら阿字等の種々の義を說き玉へり是れ則ち祕機の爲めに此の說をなす龍猛無畏廣智等も亦其の義を說き玉へり能不の間教機に在るのみ之を說き之れを默する並に佛意に契へり問顯密二教其旨天に懸なり今此の顯經の中に祕義を說く不可なり醫王の目には途に觸れて皆藥なり解寶の人は礦石を寶と見る知ると知らざると何誰か罪過ぞ又此の尊の眞言儀軌觀法は佛金剛頂の中に說き玉へり此れ祕か中の極祕なり應化の釋迦は給孤園に在まして菩薩天人の爲に畫像壇法眞言手印等を說き玉ふ亦是れ祕密なり陀羅尼集經の第三の卷是なり顯密は人に在り聲字卽ち非なり然とも猶は顯か中の秘秘か中の極秘なり深淺重々ならん耳

我依祕密眞言議　略讚心經五分文

説き玉ふ亦是れ祕密なり陀羅尼集經の第三の卷是なり顯密は人に在り聲字卽ち非なり然とも猶は顯か中の秘秘か中の極秘なり深淺重々ならん耳

我依祕密眞言議　略讃心經五分文

一字一文遍法界　無終無始我心分
翳眼衆生盲不見　曼儒般若能解紛
灑期甘露霑迷者　同斷無明破魔軍

般若心經祕鍵

于時弘仁九年の春天下大疫す爰に帝皇自ら黃金を筆端に染め紺紙を爪掌に握て般若心經一卷を書寫し奉り玉ふ予講讀の撰に範て經旨の宗を綴る未だ結願の詞を吐かざるに蘇生の族ら途にたたつむ夜變じて日光赫々たり是愚身か戒德に非ず金輪の御信力のなす所なり但し神舍に詣せん輩は此秘鍵を誦ずたてまつるべし昔し予鷲峰說法の莚に陪て親り是の深文を聞きつ豈其の義に達せざらんやのみ

入唐沙門　空海　上表

光明眞言品

（金剛頂經光明眞言品）

大興善寺三藏沙門大廣智不空奉詔譯

爾時に大日如來諸の菩薩と一切の天人大衆とに告げ玉く我今未來の一切の諸の行人法者の爲に此の光明眞言の法要を說かん汝ぢ大衆當

光明眞言品

大興善寺三藏沙門大廣智不空奉詔譯

爾時に大日如來諸の菩薩と一切の天人大衆とに告げ玉く我今未來の一切の諸の行人法者の爲に此の光明眞言の法要を說かん汝ぢ大衆當に聽くべし我今まの次第に汝等ぢ爲めに演說すべし若し無量百千萬億の衆生ありて諸の苦惱災惡を受けんに此の眞言祕密神呪を聞いて而も受持することを得ば必ず無量の苦惱災惡を滅除し福壽を增長して安穩快樂を蒙むらしめん若し一切衆生ありて此の光明の呪を聞く事を得ば必ず無始輪廻の生死の重罪を滅除して如來の界會に入ることを得現前にして而も無量無邊の福德を增長することを得ん大力の魔軍を摧伏して勝利を得んぢための故に怨賊を降伏して慈愛の心を成ぜんぢための故に一切の邪道を除きて正覺菩提を成ぜんぢための故に一切の怖畏を除て歡喜を得んがための故に一切の障難を除て安穩を得んぢための故に貧窮を除て富饒を得んぢための故に下賤を除て高貴を得んが爲の故に鈍根を除て利根を得んがための故に愚癡を除て智惠を得んぢ爲の故に無量の辯才を得んぢための故に自然の福德を得んぢための故に一切の自在を得んぢ爲の故に一切の所願を滿足することを得んぢため

高貴を得んが爲の故に鈍根を除て利根を得んがための故に愚癡を除て智惠を得んが爲の故に無量の辯才を得んがための故に自然の福德を得んがための故に一切の自在を得んが爲の故に一切の所願を滿足することを得んがための故に此の光明眞言を說く即ち呪を說て曰く

唵阿謨伽尾盧遮耶摩訶冐陀羅摩尼婆頭摩蘇縛羅婆羅婆唎陁耶吽。　婆吒蘇婆訶

此の祕密眞言呪はこれ萬億無數の諸佛如來の心中の祕密呪なりこの眞言神呪を誦持すれば

卽ち萬億無數の諸佛如來歡喜したまふこれ大日如來と阿彌陀如來と兩軀の如來の心中の神呪なり一遍を誦ずれば百萬無量の大乘經百萬無量の尼羅尼百萬無量の法門を誦じ了る其功德よりも最勝なりとす此れ大日如來の肝心の祕密呪なり三世三劫の一切の諸佛此の眞言呪を誦持する力に由て速かに正覺を成することを得この大神呪は是れ百億無數の諸佛如來の母百億無數の菩薩聖衆の母なり是れ大明呪なり是れ無上呪なり是れ無等々呪なり是れに依りて光明眞言と名づくこれ釋迦如來常恒に恭敬し禮拜し給ふ昔し忍辱仙人の行を修し給ふ間にも常に此の眞言呪を誦し給ひき此時に頂より百千の光明を出現〜三千大千世界を照曜して正覺を成〜玉ふ故に光明眞言と名くこと

依りて光明眞言と名づくこれ釋迦如來常恒に恭敬し禮拜し給ふ昔し忍辱仙人の行を修し給ふ間にも常に此の眞言呪を誦し給ひき此時に頂より百千の光明を出現〜三千大千世界を照曜して正覺を成〜玉ふ故に光明眞言と名くこれ五智の如來非我の身を現〜頂より各々百千の火燿を放出して魔王の軍類を燒滅し並に魔王の宮を燒滅しき時に魔王衆類を引て皆摧滅し五智の如來の爲めに各論を成じ了んぬ時に卽ち此百千の火燿の光明に依りて三千大千世界の中の惡道黑暗の處地獄一切の惡趣苦の處この百千の火燿の光明に照されて皆悉く甚明に成り了りぬ此光明の力に依りて地獄餓鬼畜生阿修羅等皆悉く惡趣を解脫して速かに正覺を成ずることを得たりき故に光明眞言と名く此故に一切の諸の行人智者常に此眞言を受持し讀誦すべし一切の天神地祇一切の靈鬼等成佛の大因緣なり爾時に大日如來光明大甚深の密言を讃〜て言はく初に唵阿謨伽と云はこれ三身萬德の如來の心中の密言なり次に尾盧遮那とはこれ其の如來の眞實明の句言なり次に摩訶穆陀羅摩尼婆頭摩と云は四攝智菩薩等の心中の密言なり次に蘇婆羅婆羅婆唎陀耶とは是れ三世三劫の一切の諸佛如來一切の菩薩等の心中の密言なり次に吽婆吒と云ぱ此れ大日

那とはこれ其の如來の眞實明の句言なり次に摩訶穆陀羅摩尼婆頭摩と云は四攝智菩薩等の心中の密言なり次に蘇婆羅婆羅婆唎陀耶とは是れ三世三劫の一切の諸佛如來一切の菩薩等の心中の密言なり次に吽婆吒と云ぱ此れ大日如來と阿彌陀如來との大神力威猛大勢力の密言なり地獄を破裂して淨土を成す句言なり次に蘇婆訶と云は此れ大菩提の果を證得する句言なり此眞言を誦持する者は常に淨と不淨とを選ぶべからず一切の穢惡に障滯すべからず常に間斷すべからず此眞言を誦持するものは一切の天神地祇靈鬼等悉く歡喜し悅可する所なるゆゑに大福德を蒙むるゆゑに常に誦持すべし若し大智慧を得んと欲せば東方に向つて十萬遍を誦ぜは必ず大智慧を得ん若し辯才を得んと欲せば東方に向つて二十萬遍を誦ぜば必ず辨才を得ん若し貴人の愛敬を得んと欲せば東方に向つて三十萬遍を誦ぜよ若し一切の上下諸人の愛敬を得んと欲せば西方に向つて四十萬遍を誦ぜよ若し長壽を得んと欲せば東方に向つて五十萬遍乃至百萬遍を誦ぜよ必ず長壽福樂を得ん死者の爲めに此眞言一遍を誦ぜば必ず阿彌陀如來死者の爲めに手を授けて極樂淨土に引導し給ふ況んや七遍若くは十遍二十遍を誦持せん功德更に量るべからず若し

方に向つて五十萬遍乃至百萬遍を誦せよ必ず長壽福樂を得ん死者の爲めに此眞言一遍を誦せば必ず阿彌陀如來死者の爲めに手を授けて極樂淨土に引導し給ふ況んや七遍若くは十遍二十遍を誦持せん功德更に量るべからず若し墓處に於て四十九遍を誦すれば必ず阿彌陀如來斯の靈を荷負し決定して極樂淨土に往生せしむ若し孝子一切の人ありて率都婆を安置し奉り父母の墓處を建立せば無量億劫を經ても其靈地獄惡趣に隨せず蓮華座の上に化生せん胎生の身を受けず邊地下賤に生ぜず所生の處に常は極樂淨土の佛前の蓮華に生ぜん若し此光明眞言を誦持する法師ありて其身に吹き宛てん風來りて一切衆生類の身に觸るれば皆悉く苦果を解脫して一切佛地の界會に入らん並に禽獸異類の畜生の業を脫れて皆悉く人天の果を證得せん若し死者の靈ありて惡道に隨せず惡道を助救する度苦の法を說くべし地獄餓鬼道に隨せば戌亥の方に向つて四十九遍を誦せよ餓鬼等の苦を免れて極樂に往生す畜生道に隨せば丑寅の方に向つて四十九遍を誦せよ畜生道の苦を免れて極樂に往生せん阿修羅道に隨せば辰巳の方に向つて四十九遍を誦せよ阿修羅の苦を免れて極樂に往生せん若し人中の樂處に生ぜんと欲せは未申の方に向つ

生道に隨せば丑寅の方に向つて四十九遍を誦せよ畜生道の苦を免れて極樂に往生せん阿修羅道に隨せば辰巳の方に向つて四十九遍を誦せよ阿修羅の苦を免れて極樂に往生せん若し人中の樂處に生ぜんと欲せは未申の方に向つて四十九遍を誦せよ必ず人中の樂處に生ぜん若し天上に生ぜんと欲せは天を仰ぎ目を閉ぢて百千遍を誦せよ必ず天道に生ん若し父母の靈をして極樂淨土に生ぜしめんと欲ば西方に向つて千遍を誦せよ決定して極樂淨土に生ぜん是故に父母の墓處を建立し眞言を以て阿彌陀如來の梵字に書副して父母の墓處に安置せよ必ず彼靈無量無邊不可思議阿僧祇劫を經ると雖も惡道に隨せず必ず極樂淨土の蓮華中の寶座の上に往生せしむ成佛の時に眉間より白毫の光明を放つ故に光明眞言と名く若し衆生あつて耳に此眞言一遍を聞かば此人は無量億劫の生死の重罪を滅除して大三摩地を證得せん況んや亦た常に誦持する人は阿彌陀如來荷負して極樂淨土に生ぜしむることを得ん三十二相八十種好の莊嚴を具足して速かに正覺を成ぜしむ若し女人あつて女身を厭み男身と成らんと欲して常に此眞言を誦持すれば必ず女人を轉じて男身を得ん若し常に誦持する女人は大梵天王と成ることを得ん若し形貌醜陋の

二相八十種好の莊嚴を具足して速かに正覺を成ぜしむ若し女人あつて女身を厭み男身と成らんと欲して常に此眞言を誦持すれば必ず女人を轉じて男身を得ん若し常に誦持する女人は大梵天王と成ることを得ん若し形貌醜陋の女人この眞言を誦持すること一萬遍を滿せば必ず端正の形貌を得て世間の諸人のために愛敬せられんこと疑あるべからず若し世間の一切の佛子ありて妄讀妄誦の罪を免れんために此眞言を誦せば妄讀妄誦の罪を免れて必ず如法清淨に成り了らん爾時に諸の菩薩及ひ一切の天人大衆佛の所說を聞て皆大に歡喜して受信し奉行し上りき

光明眞言經　終

次廻向

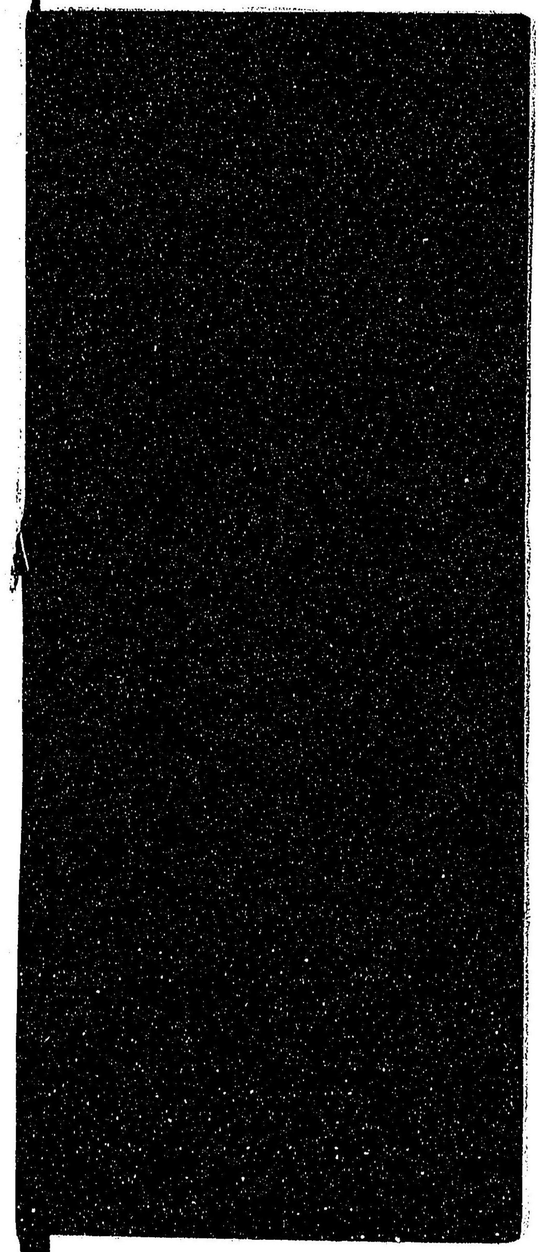
願以此功德　普及於一切
我等與衆生　皆共成佛道

明治三十九年三月卅一日印刷
明治三十九年四月五日發行

編纂者　岩城元隨

京都市寺町通五條上ル西橋詰町二十五番戸
發行者　藤井佐兵衛
兼印刷

複製不許



特55
927

016017−000−7

特55−927

在家勤行集（密教和訓）

岩城　元隨／編

M39. 4

ABC−1851